

日本学術会議・地球惑星科学委員会・地球惑星科学国際連携分科会
SCOSTEP-STPP 小委員会(第 24 期・第 2 回)議事録

開催日時: 2018 年 5 月 20 日(火) 12:30-13:20

開催場所: 千葉県千葉市美浜区中瀬 2-1 幕張メッセ国際会議場 303 号室

出席者: 石井守、上野悟、大村善治、小原隆博、塩川和夫、末松芳法、高橋幸弘、津田敏隆、
寺田直樹、廣岡俊彦、藤井良一、増田智、村山泰啓、山本衛、吉川顕正

欠席者: 草野完也、坂尾太郎、中村卓司、星野真弘

オブザーバ: 中村正人、三好由純

議事に入る前に、塩川委員長から資料 6 に基づき、本小委員会の議事録の承認プロセスについて説明があった。小委員会開催後 8 週間以内に議事録を確定させるために、今回以降の小委員会から、議事録の承認プロセスとして、

「②会議等開催後にメール等により出席者が議事要旨の内容を確認し、出席者全員が確認したことが明らかになった後、承認については議長に一任する。」

という方法をとることが承認された。

議事次第

1) 次期 SCOSTEP プログラムの策定に関する日本側の対応について

塩川委員長から次期 SCOSTEP サイエンスプログラムの検討委員会の提案(資料 4)について説明があった。また、本小委員会の下での SCOSTEP 次期プログラム検討 WG で議論された内容(資料 3)の説明があり、これらに関して、自由討論が行われた。主な意見は下記のとおりである。

・主に資料 4 に関して

CAWSES, CAWSES2, など過去のプログラムとの違いが分かりにくい。

予測を強く押し出している。ただしタイトルが **Application** ではなく **Applicability** なので、予測の可能性の議論が全面的になるだろう。Application まで考慮する必要がある。

大気科学の研究者を巻き込んでやらないと成果は出ない。

予測を前面に出すと、AI 技術やデータサイエンスの導入は避けられない。

物理モデルとの関係・整合性はどうか。

ビッグデータ解析, e-Science との関連が重要になってくるのではないかな。

IUGONET 的な活動の国際化を推進する必要あり。

次期プログラムで取り扱う **database** の定義も必要。

マシンラーニングなど最新技術を次期プログラムのテーマの一つにするべきではないか、。

これまではサイエンスあるいは分野でテーマを決めてきたが、今後は手法で柱を立てること

も可能かもしれない。

いずれにせよ、要所要所にオープンサイエンス、データサイエンス、AIなどをキーワードとして入れていくべき。

将来的には、データサイエンスの側から観測のやり方が変わってくる可能性がある。

・主に資料3に関して

WGで議論した太陽活動極小期に重点を置いたテーマはどう扱われるのか。

資料4の提案は今後の議論で変わっていくものである。

今後の会議で日本からの意見を出すことは可能。

各研究課題の実現可能性を考慮して、次期プログラムの重点トピックスを選択してはどうか。

各研究課題にそれぞれ対応する具体的な手段を記載したほうがいい。

今後、SCOSTEP Bureauとしては、ISSIのフォーラム(2018年11月:北京、2019年2月:ベルン)での議論を通して最終版を決定していく予定であり、日本からは塩川委員長、中村副委員長が出席する予定である。これらの機会に日本からのインプットを伝えることが可能なので、本小委員会としては、今後も、随時、メールベースで議論していく。

2) ネットワーク観測やキャパシティ・ビルディングについて

資料5に基づいて、吉川委員から前期までのSTPP小委員会で行われてきたネットワーク観測やキャパシティ・ビルディングの活動に関する説明があった。引き続き、本小委員会でのそれらの活動に関する議論が行われ、下記のような方針が決定された。

他の学術会議の委員会等に含まれない国際機関・プロジェクト(UN関係、ISWI、ICAO、UN-COPUOSなど)の活動報告をする。

外圏会での国内各研究機関の報告事項も必要ならば、本小委員会で紹介する。

次回以降、関係者に情報提供を依頼する。

3) 次回会合の予定

2018年11月に名古屋大で開催されるSGEPSS期間中にTV会議で行うことになった。

以上。